[illegible]新聞 No.6 日本社会主義青年同盟

3の月斗争・沖縄[illegible]～一回[illegible]1000人結集の成果を上へ向け、4・28沖縄[illegible]に総結集し勝利の大[illegible]を結集せよ!!

全ての日本学生諸君、昨年11月に行なわれた沖縄国政参加選挙＝3月に行なわれんとしているこの[illegible]に伴う自治[illegible]300人余は日本の側にある。72年以後の[illegible]の本土資本の進出に伴う農業再編について述べ、第四の共同体分解の過程である。しかし、この共同体分解は質的に異なったものとしてある。第一にこの共同体分解＝社会再編は日本ヘゲモニーのもとになされ、これは日本全土でおこなわれている再編過程の構成要素をなすものであり、このことは従来いわれた「沖縄」の特殊性の直接的否定である。第二に共同体分解の主体がかつては農民層であったのに対し、今回の場合には賃金労働者であるという。沖縄においてはすでに農業部門の就業人数は他を圧しているのだが、相当数が68年以来の過程の中で農業プロレタリアートに転化している。従って農民分解は副次的なものとなり、同時に第二次産業への吸収ははるかに目的意識的なものとなるだろう。この72年をメルクマールとする双方は更に具体的なものではなくして、全土的、アジア的視野にたった国家的規模で進行しているのであり「日本の中の東南アジア」なる位置づけなのである。第三に産業合理化＝軍事再編が、反革命、侵略体系の総体的要の中で進行していることである。「かつては軍事的総合基地」が[illegible]体制の中にあることによって、今次共同体分解過程はその[illegible]においてあ[illegible]ならなくなっている。つまり「過疎化」の[illegible]を軸にして、「過密化」工業地帯のもとに展開されることにより、国家・帝国主義的総体が直接あらわしたものだったのである。この本質を見るならば、我々の[illegible]は、帝国主義一国家幻想という同一の論理において日本本土―沖縄の二つの課題はありえない。69年10.21[illegible]年以降の国際主義の貫徹を根底的に問うものとして、72年沖縄＝第三次琉球処分は存在しているのだ。

コザの反乱をみよ、沖縄の反乱のエネルギーの根は[illegible]の撤去＝への[illegible]とやみがたいものは[illegible]（沖縄においては、すでにアメリカは問題としてあるだけなのだが）が、全人民的な反乱の根底と解決への意識を人民の前に提出したのだ。この反乱に[illegible]アメリカ[illegible]一切は[illegible]、[illegible]実力阻止[illegible]、[illegible]、コザ反乱に、[illegible]、社民[illegible]のだ。

沖縄の問題を[illegible]アジア[illegible]を語ろうなどということは我々は許せない。アジア諸国を語ることで沖縄の問題を語ったような気になってはならないだろう。沖縄全体の問題を語ることで、アジア[illegible]においてもえくくのもたれるべきことはならない。日米帝国主義の矛盾によって、[illegible]沖縄はアジア再編という[illegible]に結ばれ、3月[illegible]の[illegible]は、アジア[illegible]一歩あゆみにたたいにはならない。我々にせまられているのは、大衆反乱による実力阻止[illegible]の[illegible]こそが問われているのだ。反乱の暴力を組織し、革命の暴力に転化せよ!!